

百尺竿頭

ひゃく しゃく がん とう



札幌市青少年山の家だより

第29号

平成24年(2012年)12月1日

札幌市青少年山の家
事業主任 山田 啓 貴

「キャンプファイヤーのススメ」

数日間のキャンプ生活を経た参加者が集い、一つの火を囲むキャンプファイヤーは、ふと自分を見つめ直す機会となり、心揺さぶる神秘的な感動を与えてくれます。それは、私たちの心にある、原始の時代から受け継がれてきた魂が反応しているからでしょうか。

人類が誕生した頃から、生きていく生活そのものが厳しい自然と向き合うことでした。寒さから身を守る、調理をする、闇夜を照らす、獣から身を守るなど、火は生活のために無くてはならない、最も身近な“自然”でした。

そんな意味のある火を囲み、人々が集い、語り合う場としてのキャンプファイヤーは昔も今も変わらないセレモニーです。

青少年山の家をご利用いただく多くの団体様のプログラムでも、キャンプファイヤーは実施されています。目的や形態も様々ですが、厳かなセレモニーと歌やレクゲーム、グループの出し物などを組み合わせ、キャンプ生活を締めくくる活動として実施されています。

手を繋ぎ一つの輪となり、炎に照らされる仲間の笑顔を見ることで、心も繋がっているということを確認させ、大きな記憶として刻まれます。

最も身近な自然である「火」と共に、滝野の自然の中で豊かな自然体験を。

単なる明かり取りとしての炎ではなく、火を見つめて語り合い、思いをめぐらせることができる「キャンプファイヤー」にしたいものです。



うたのチカラ

レクゲームだけではなく、キャンプソングを織り交ぜたプログラムを。

炎で心が温まり、キャンプソングの歌詞が心に響く。願いを伝える、気持ちを束ね、キャンプの思い出と共によみがえる歌を。

ミニマムインパクト

必要以上に大きな火やバカ騒ぎの声…。野生動物や自然環境に悪影響かもしれません。

自然に対して最小限の影響力のキャンプファイヤーが求められる時代が来ています。



実施事業のご報告

■幼保小連携事業「なかよしキャンプ」③ 11月4日(日)

山の家館内探検とネイチャーゲームを楽しみました。

館内探検では、食堂の利用方法や宿泊室の使い方、寝具の使い方などを練習し、1月に宿泊で行われる4回目の活動に備えました。

ネイチャーゲームは雨天のため館内で実施しましたが、参加者たちは身近に自然を感じる事ができたようです。

■第4回事前研修会 11月9日(金)

1月～3月に宿泊学習で使用する小学校の先生を対象とした第4回事前研修会を実施しました。今回は利用の留意点や活動に関する説明や質疑応答が中心となりました。第5回事前研修会では、実際に山の家周辺での各種プログラム体験を行う予定です。



利用者アンケートより

○急なお願いにも迅速に対応していただき、ありがとうございました。

○事前準備から当日まで大変お世話になりました。次年度もよろしくお願いいたします

野外活動の

豆知識

子ども達に野外活動を指導する時、色々な想いやテクニックがありますが、今回は“選択”について考えてみましょう。

まず、子ども達(特に集団)は、与えられた目的の為、ひたすら実行を最優先します。例えば、ハイキングやオリエンテーリングの場合、コース上に危険箇所(蜂の巣など)を発見した場合でも、「ゴールはこの先」という意識や「後から次の人が来ている」という意識が優先し、危険箇所があっても「前進」を選択せざるを得ません。結果、集団にて後半の子が事故(蜂に刺される)にあう、という例が発生します。

これは、意外に盲点で、子ども達にはもちろん、指導者へも「危険を見つけたら避ける。もしくは引き返す」という“選択”が可能だという事を確認すると、「なるほど!」というリアクションがあります。

これからの時期、雪庇(せっぴ)や氷柱(つらら)など、冬ならではの危険箇所も出てきます。“選択”は、プログラムの幅や、参加者の自主性などにも効果がありますが、フィールド管理者、指導者及び参加者が一体となって“選択”の幅を広げていけたら素敵ですね。



発行者：札幌市青少年山の家
指定管理者(財)札幌市青少年女性活動協会

〒005-0862 札幌市南区滝野 247 番地 (国営滝野すずらん丘陵公園内)
電話 (011)591-0303 FAX(011)591-0394
ホームページ <http://www.sapporo-yamanoie.jp>

ひゃくしゃくかんとう
百尺竿頭

